

主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本事項	計画コード	事業名		部名	産業建設部	
	17018	橋梁長寿命化修繕事業		課名	土木課 施設保全G	
	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上		財務科目	会計	01:一般会計
	基本施策	04:道路の保全・整備			款	08:土木費
	施策の方向	04:道路施設の適切な維持管理			項	02:道路橋梁費
戦略プロジェクト	-		目		06:橋梁維持修繕費	
事業予定期間	H 27 ~ R - 年度	主な根拠法令要綱等		道路法・道路構造令・道路橋示方書		

目的・概要	対象	道路利用者
	目的	対処療法的な修繕から、計画的かつ予防保全的な修繕に転換し、安全で安心な道路サービスの提供を行うとともに、橋梁の耐用年数の延長(長寿命化)や、修繕に要する経費のコスト縮減に努める。
概要	概要	橋梁の健全度の点検を継続して実施するとともに、長寿命化修繕計画に基づき、市が管理する全橋梁の補修を計画的に進める。

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
事業の計画・実績	年度計画	橋梁長寿命化修繕計画の改定 ・市が管理する全橋梁対象 健全度橋梁点検委託 ・28橋(橋長L=15m以上) 補修工事 ・小谷跨道橋、西中谷橋、星田橋、高飛大橋	健全度橋梁点検委託 ・85橋(橋長L=15m以上) 補修工事 ・北山橋、筆捨橋、下万寿寺橋	健全度橋梁点検委託 ・60橋(橋長L=15m以下) 補修工事 ・布気跨道橋、市瀬橋	
	年度実績	○橋梁長寿命化修繕計画の改定 ・市が管理する全橋梁対象 ○健全度橋梁点検委託 ・28橋(橋長L=15m以上) ○補修工事 ・小谷跨道橋、西中谷橋、星田橋			
事業費	計画額	事業費	105,000千円	43,000千円	30,000千円
		国庫支出金	57,750千円	23,650千円	16,500千円
		県支出金			
		地方債	26,200千円	9,700千円	8,100千円
		その他			
	予算額	事業費	83,700千円		
		国庫支出金	46,035千円		
		県支出金			
		地方債	17,700千円		
		その他			
	決算額	事業費	83,665千円		
		国庫支出金	46,015千円		
		県支出金			
		地方債	16,200千円		
		その他			
人件費	総人件費	10,989千円	0千円	0千円	
	一般職員	10,989千円	0千円	0千円	
	所要人員	1.40			
	会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円	
総コスト(+)		94,654千円	0千円	0千円	
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%	

			令和元年度	令和2年度	令和3年度	
指標	名称	健全度点検橋梁数(累計)	計画値	28	113	173
		健全度調査を実施した累計橋梁数 (5ヶ年点検:H31-H35)	実績値	28		
			単位	橋	橋	橋
	名称	橋梁長寿命化修繕計画の改定	計画値	改定		
			実績値	改定		
			単位			
名称	長寿命化修繕工事済み橋梁数(累計)	計画値	12	15	17	
	修繕橋梁数(～H30) 8橋	実績値	11			
		単位	橋	橋	橋	

事業の改善	前回評価	<p>【前回評価の対応方針の概要を記入】</p> <p>亀山市単独での高速道路管理者と受託協議を行うのではなく、三重県道路管理者を加えた三重県下全体要望として高速道路管理者と協議を進め、一括受託の検討を行う。</p>
	改善行動	<p>【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】</p> <p>三重県道路管理者及び各市町道路管理者と中日本高速道路株式会社(以下ネクソ)との間で、「三重県道路インフラメンテナンス協議会」を開催し協議を行ったところ、各自治体の工事時期についての情報共有を図ったうえ、ネクソの各事務所で計画している事業量を勘案しつつ一括受託工事についての協力が得られた。</p>

		評価	(判定)
事業の評価	活動	<p>【計画どおりに実施できたか】</p> <p>高速道路を跨ぐ橋梁修繕工事について、高速道路管理者との協議(交通規制時における渋滞発生)に不測の期間を要したため、工事進捗が遅れ、小谷跨道橋、西中谷橋の年度内完成ができず繰越を行った。</p>	<p>B</p> <p>まずまず実施できた</p>
	成果	<p>【成果は順調に上がったか】</p> <p>橋梁長寿命化修繕計画の改定では、修繕及び架替えに係る費用を縮減・平準化するよう維持管理計画を策定することができた。今後、予防保全型の維持管理方針に基づいて適切な時期に修繕対策を実施することによって、事後保全型の維持管理方針に基づいて修繕対策を実施した場合と比べて、今後50年間で約54%のコスト縮減が見込まれる。</p>	<p>B</p> <p>まずまず成果を得た</p>

今後の対応方針	課題	<p>【課題は何か】</p> <p>5年に1度の定期点検において、健全度と診断された橋梁については、次回点検年までを目途に、確実に修繕を実施する必要がある。また、予防保全としての補修費も膨大にかかるため、国の交付金を活用していかなければならない。長寿命化は事業費が膨大にかかることから、財源を国の交付金に委ねており、平準化した財源確保が課題である。</p>	<p>今後の方向性</p> <p> <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 </p> <p>【その他の場合、その内容を記載】</p>
	対応	<p>【課題に対し、どのように対応するか】</p> <p>交付金の配分率が年々減少傾向にあるため、亀山市国土強靱化地域計画に橋梁長寿命化修繕事業を道路の保全・整備の施策指針と位置付けて、総合的かつ計画的に推進していることを内外に発信して、財源確保に努めていく。</p>	
	効果	<p>【対応することで、どのような効果が期待できるか】</p> <p>優先順位の高い橋梁から順次修繕を実施し、計画に基づいた予防的修繕を進めることで、道路ネットワークの安全性・信頼性の確保が図れる。</p>	
対応時期		令和2年度以降	

【1次評価者】	産業建設部 土木課 施設保全グループリーダー 曾我 信介
【最終評価者】	産業建設部 土木課長 宮崎 伸二

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	B	B		
	成果	A	B	B		

令和元年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		83,700 千円
内訳	平成30年度からの繰越額	20,095 千円
	令和元年度の最終予算額	109,045 千円
	令和2年度への繰越額	45,440 千円